

令和3年度
事業報告書

〔 自 令和3年4月 1日
至 令和4年3月31日 〕

公益財団法人 大山健康財団

公益財団法人 大山健康財団

令和 3 年度事業報告書

〔 自 令和 3 年 4 月 1 日
至 令和 4 年 3 月 3 1 日 〕

本財団の令和 3 年度の事業は、令和 3 年度事業計画書に基づき、下記の事業等を行った。

I. 学術研究助成事業

本財団定款第 4 条第 1 項第 1 号に規定される学術研究助成事業は、大学、研究所、病院などにおいて、感染症の基礎的あるいは臨床的研究を行っている者及び感染症に関する疫学的研究を行っている個人で、満 50 歳以下の者を対象とする研究助成金で、令和 3 年度（第 48 回）学術研究助成事業は次の日程により実施した。受贈者は下記のとおりである。

なお、贈呈式は、令和 4 年 3 月 24 日（木）に霞が関・霞山会館において開催した。

- ・ 公募開始：令和 3 年 10 月 1 日 応募要領・申請書 195 通発送
本財団ホームページ及び公益財団法人公益法人協会共同
サイト、日本感染症学会、日本寄生虫学会のホームページ
に応募要項を掲載した。
- ・ 公募締切：令和 3 年 11 月 30 日 応募件数：53 件
(応募内訳 細菌学分野 38 件、寄生虫学分野 15 件)
- ・ 選考委員会：令和 4 年 1 月 25 日
- ・ 理事会決定：令和 4 年 2 月 10 日

【第 48 回学術研究助成金受贈者】 (敬称略)

氏 名	所 属・役 職	研 究 課 題	助成額 (円)	選考分野
あしだ ひろし 芦田 浩	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 准教授	病原性大腸菌感染における細胞死制御機構の包括的解明	1 0 0 万	細菌学
くどう やすせい 工藤 保誠	徳島大学大学院医歯薬学 研究部口腔生命科学分野 教授	西アジア地域における <i>Fusobacterium nucleatum</i> 感染の口腔癌発症への関与	1 0 0 万	細菌学
たにがわ かずなり 谷川 和也	帝京大学薬学部 分子薬剤学研究室 助教	宿主由来脂質を利用したらい菌の細胞壁脂質ミコール酸合成と細胞内寄生への影響について	1 0 0 万	細菌学
たばた あつし 田端 厚之	徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 准教授	川崎病児由来レンサ球菌が産生するコレステロール依存性細胞溶解毒素による血管炎症惹起メカニズムの解明	1 0 0 万	細菌学
つがわ ひとし 津川 仁	東海大学医学部基礎医学 系生体防御学領域 専任講師	腸管粘膜常在マクロファージによる消化管内共生病原菌クレブシエラの認識・制御機構の解明	1 0 0 万	細菌学
なががま ゆう 中釜 悠	大阪市立大学大学院 医学研究科寄生虫学 特任講師	シャーガス病重症化機構の解明に資する新規細胞モデル構築	1 0 0 万	寄生虫学

にし 西	つばさ 翔	三重大学大学院医学系研究科 医動物・感染医学 助教	AP2-TF 標的遺伝子解析によるマラリア原虫メロゾイト形成の分子基盤の解明	100万	寄生虫学
ひらかわ 平川	ひでただ 秀忠	群馬大学大学院 医学系研究科 准教授	多孔質炭素を利用した細菌感染症治療技術の基盤構築	100万	細菌学
みやけ 三宅	けんすけ 健介	東京医科歯科大学 統合研究機構 特任助教	<i>Nippostrongylus brasiliensis</i> 再感染時の未熟好塩基球浸潤機構の解明	100万	寄生虫学
やまざき 山崎	ゆう 雄	広島大学病院 脳神経内科 講師	歯周病原：ジンジバリス菌はアルツハイマー病の病態を促進させるか？-最新ヒト化マウスによる実証研究-	100万	細菌学
				1,000万	

II. 顕彰事業

本財団の定款第4条第1項第2号及び大山健康財団賞・大山激励賞・竹内勤記念国際賞選考規程第2条に基づき、令和3年度顕彰事業は下記の日程で実施し、審議の結果大山健康財団賞に浦部大策氏、大山激励賞に三好康広氏、竹内勤記念国際賞に Marcello Otake Sato 氏をそれぞれ受賞者に決定した。

なお、贈呈式は令和4年3月24日（木）に霞が関・霞山会館において開催した。

各受賞者には、それぞれ下記の賞状等を贈呈した。

- ・大山健康財団賞受賞者：賞状・記念メダル・副賞 100 万円
- ・大山激励賞受賞者：賞状・副賞 50 万円
- ・竹内勤記念国際賞受賞者：賞状・副賞 30 万円

・公募開始：令和3年10月1日 推薦依頼 43 通発送

本財団ホームページ及び公益財団法人公益法人協会共同サイトに推薦依頼を掲載した。

・公募締切：令和3年11月30日

※推薦件数：大山健康財団賞：3 件、大山激励賞：3 件、竹内勤記念国際賞：2 件

・選考委員会：令和3年12月21日

・理事会決定：令和4年2月10日

1. 令和3年度（第48回）大山健康財団賞受賞者（敬称略）

○浦部 ^{うらべ だいさく} 大策 社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院 国際事業部長
医師（小児科専門医） 医学博士 （満 64 歳）

< 功労の内容 >

浦部大策氏は、1986 年より社会医療法人「雪の聖母会」の海外事業の牽引者として JICA 関連の保健医療プロジェクトにおいて、医療の専門家としてのみならずプロジェクトの運営管理全般に携わり、途上国における病院の医療の質の向上に多大なる貢献をされた。

特に 聖マリア病院が草の根レベルの国際協力を推進するため設立した NPO 法人 ISAPH において理事としてラオス及びマラウイの農村部の母子保健活動の技術的な指導にも力を注いでこ

られた。中でも、母子の栄養状態の改善において、現地政府の保健ワーカーを育成し、住民を対象とした健康教育に加え農業や食用昆虫養殖などの多面的なアプローチにより栄養改善を図り、ラオスで多発していたビタミン B1 欠乏症による乳児死亡を激減させたことは、ラオス政府より高く評価されている。

また、1986 年の JICA パキスタン・イスラマバード小児病院プロジェクトにチームリーダーとして従事されたのをはじめ、中国ポリオ根絶活動、インドネシア、ウズベキスタン等における多くの JICA 関連のプロジェクトにおいて、保健医療の専門家として尽力された。

2. 令和 3 年度大山激励賞受賞者（敬称略）

みよし やすひろ
○三好 康広 国境なき医師団 シエラレオネ MSF Hangha Hospital
医師（産婦人科専門医） ザンビア医師免許取得（満 38 歳）

< 功労の内容 >

三好康広氏は、ザンビア南部州ジンバ地区にあるジンバミッション病院において 医療設備や体制が十分とはいえない環境の中、無給のボランティア医師として、現地に移住してまで地域医療の向上に尽力された。

2006 年、長崎大学医学部在学中のアフリカ横断の旅で経験されたことがきっかけで、途上国での医療ボランティアを志され、帰国後は産婦人科が専門であったにもかかわらず内科、外科 何でもこなせる医師を目指して医学研修に励まれ、2016 年 5 月にザンビアの医師免許も取得されるなど、ザンビアへの医療協力に並々ならぬ努力とボランティア精神で貢献してこられた。

特に、2020 年 3 月に WHO がパンデミック宣言をした新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大が懸念される中においても現地に留まり、診療活動を続けられた。

3. 令和 3 年度（第 4 回）竹内勤記念国際賞受賞者（敬称略）

まる せろ おおたけ さとう
○Marcello Otake Sato 獨協医科大学医学部熱帯病寄生虫病学講座
助教 獣医師 医学博士（満 50 歳）

< 功労の内容 >

Marcello Otake Sato 氏は、長年 熱帯・亜熱帯地域の人々をいまだに苦しめている寄生虫病、所謂「顧みられない熱帯病」の研究に携わり、数多くの成果を挙げられている。

特に、グローバル・エコヘルスの概念を念頭におき、特定の寄生虫や寄生虫病だけに着目するのではなく、病原体、媒介生物、宿主の相互関係を幅広く捉え、「現地住民の生活や文化の中でどのように寄生虫病が惹起されるのか？」を研究課題とした研究成果は、学会発表だけでなく、数多くが国際科学雑誌で発表され高く評価されている。

近年は、新たな試みとして環境 DNA の解析データや地理情報システム（GIS）を寄生虫病対策に取り入れた研究を進められ、流行地の自然水や土壌などの環境中に含まれる寄生虫の遊離 DNA を解析することで、当該地域の浸淫の程度を割り出されている。さらに、それらの検出データを罹患者の居住地や媒介生物が生息している地域の地図へ落とし込み、感染の危険がある区域の特定と感染リスクの予測に役立たせるとともに、将来的には調査地域を拡大し、現地住民へ高い精度の「寄生虫病ハザードマップ」を提供することを目指されている。

III. 学術集会支援事業

本財団定款第 4 条第 1 項第 3 号に基づき、令和 3 年 4 月 1 日から 4 月 30 日の期間で本財団のホームページに募集要項を掲載し募集を行なった結果、4 件の応募があり、令和 3 年 5 月 18 日開催の学術集会支援審査委員会及び同日開催の理事会において、下記の学術集会に助成すること

を決定した。なお、各学術集会より下記の通り実施報告があった。

1. 「第 62 回日本熱帯医学会大会」に 45 万円助成した。

- ・申請者：中川恵美子（東北大学大学院医学系研究科 助教）
- ・主催者：日本熱帯医学会
- ・開催責任者：押谷 仁（東北大学大学院医学系研究科微生物学分野 教授）
- ・開催期間：2021 年 11 月 3 日(水・祝)～5 日(金)
- ・開催場所：オンライン開催
- ・申請金額：50 万円（総予算額：430 万円）

【開催概要】

- オンライン開催 — 大会長：押谷 仁
- ・参加者数：合計 269 名（一般学会員：112 名、一般非学会員 38 名、学生学会員 52 名、学生非学会員 24 名、招待非学会員のシンポジスト 43 名）
- ・収入内訳：大会参加費（1,462,000 円）、共催セミナー開催費（825,000 円）、広告費（20,000 円）、協賛金（450,000 円）、助成金（582,142 円）、学会事務局補助費（956,069 円）、寄付金（67,858 円）、その他（15 円）、合計（4,363,084 円）
- ・支出内訳：オンライン運営費（4,171,644 円）、会場借料（118,840 円）、広報費（66,000 円）事務局経費（3,300 円）、その他（3,300 円）、合計（4,363,084 円）
- ・開催テーマ：Global Health Issues during /after COVID-19 英語（一部日本語）
- ・基調講演：Dr.Robert Gilman
- ・市民公開講座：新型コロナワクチンをめぐる世界の状況
- ・Infectious Disease Control in Africa: Practitioners' Perspectives and Way Forward
- ・Research in Tropical Medicine during COVID-19 pandemic
- ・一般口頭発表
- ・Impact of the COVID-19 pandemic on health systems and resolving challenges
- ・男女共同参画シンポジウム「共生社会の構築～コロナ禍における対応と未来～」
- ・Regional collaboration for public health security in Asia and Africa : The respons to COVID-19 and future perspectives
- ・ランチセミナー「COVID-19 下におけるインフルエンザ対策：ワクチンの有効性。安全性を中心に」
- ・A roadmap for the control of schistosomiasis in Asia-Dr.Remigio Olveda Memorial Symposium

2. 「第 54 回ビブリオシンポジウム」に 25 万円助成したが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大のため中止となったため、助成金は当財団に返却された。

- ・申請者：山城 哲（琉球大学大学院医学研究科細菌学講座 教授）
- ・主催者：第 54 回ビブリオシンポジウム実行委員会
- ・開催責任者：山城 哲
- ・開催期間：2021 年 10 月 15 日（金）、16 日（土）
- ・開催場所：琉球大学・大学会館（沖縄県中頭郡西原町千原 1）
- ・参加者数：60 人程度
- ・申請金額：25 万円（申請上限 50 万円）（総予算額 57 万円）

3. 「女性研究者の視点による感染症予防への取組」に 30 万円助成した。

- ・申請者：清水 治（一般財団法人日本パスツール財団 代表理事）

- ・主 催 者：国立国際医療研究センター及び一般財団法人パスツール財団
- ・開催責任者：狩野繁之（国立国際医療研究センター研究所熱帯医学・マラリア研究部 部長）
- ・開催期間：2021年11月16日（火）16時～19時00分
- ・開催場所：国立国際医療研究センター研修棟大会議室にてZoom ウェビナーと併用
- ・参加者数：100名（会場直接参加30名、WEB参加70名）
- ・申請金額：50万円（申請上限50万円）（総予算額 100万円）

【開催概要・成果】

— オンライン開催—

- ・林由紀子博士（東京医科大学 学長）
「科学と研究の道を目指す女性へのメッセージ 筋研究に魅せられて」
一枚の写真に魅了されたことから生涯の研究テーマとなった、骨格筋研究でのご自身の幾つもの研究の内容を、つど指導していただいた先生方と絡めて紹介。
- ・石野智子博士（東京医科歯科大学 教授）
「蚊を介したマラリア原虫伝搬の分子機構の解明に向けて」
感染者が2億人に達し、毎年40万人が亡くなるマラリアの感染メカニズムと、新たなワクチンの研究を紹介。
- ・J.P バンサン博士（パスツール研究所3者共同出資ポスドク奨学金プログラム第1期生）
「ブルキナファソにおけるB型肝炎の母子感染予防への取組—NeoVac研究—」
慢性化して肝硬変や肝癌につながるB型肝炎。陽性の母親から感染することが多く、出産後24時間以内のワクチン接種が効果的であるが、普及していない現状・課題を紹介。
- ・パネルディスカッション
石野博士、バンサン博士、佐藤尚子博士（理化学研究所）、林原絵美子博士（国立感染症研究所）、座長 狩野繁之博士（国立国際医療研究センター）
日本とフランスでの女性研究者の境遇の違い、女性ならではの有利・不利、多様性の大切さ、結婚・出産の経験と自信の変化、粘り強さ、基礎研究の重要性など多様な話題について活発な議論が展開された。

【得られた効果】

オンラインにより開催された本セミナーには100名近い方に参加していただき、講師の取り組む研究、研究への意欲や研究者を取り巻く課題などが伝わる、素晴らしいセミナーになった。

IV. 年報作成

2021年版（年報No.46）として、令和2年度（第47回）大山健康財団賞・大山激励賞・（第3回）竹内勤記念国際賞の各受賞者、令和2年度「第47回学術研究助成金」受贈者、令和2年度学術集会支援助成金受贈対象学術集会実施報告、その他の国際協力・浅見敬三記念Grant（第43次派遣団報告）、令和2年度贈呈式アルバム及び令和元年度（第46回）学術研究助成金受贈者の研究業績報告を掲載し作成した。（令和3年12月発行）

V. 寄附金

国際医学研究会（慶應義塾大学医学部学生組織）の第44次派遣団に寄附金30万円を供与した。同研究会より以下の報告があった。

第44次派遣団はCOVID-19感染拡大に伴い、例年とは異なり2021年夏に国内、2022年春にブラジル、もしくは東南アジアでの活動を計画した。2021年10月現在では、海外活動につ

いて未定である。国内活動では、歴代派遣団同様に本研究会の設立当初からの目標である「医の原点の実体験」および「医学・医療を通じた国際交流」を基本指針とし、第9次5ヵ年計画の4年目として「変わりゆく社会に即した医療の考察」への取り組みをおこなった。一方で、世界的パンデミックとなったCOVID-19の影響は医療以外に社会、文化面においても大きな影を落とし生活は一変した。そこで、第44次派遣団独自目標として「COVID-19を通じた感染症への向き合い方の探求」を掲げ、活動全体を通して、新しい医療や社会のあり方について考察をおこなうことを目指した。

本年度の国内活動目標とその具体的な活動内容は以下の通りである。

1. 「医の原点」の実体験

- ・ 沖縄県立南部医療センター・こどもセンター附属栗国診療所を中心とした診療実習を行った。
- ・ 栗国村にて特別養護老人ホーム、デイサービス、保健師自宅訪問など地域を支える活動に参加をした。
- ・ 長崎県対馬市にて上対馬病院、一重町立診療所、豊玉診療所における診療実習を行った。

2. 医学・医療を通じた国際交流

- ・ 6ヵ国が参加した「第2回国際医学生会議(International Medical Student Meeting on COVID-19)」をオンライン会議形式で主催した。
- ・ 学校法人EAS 伯人学校にて、ポルトガル語で感染症の歴史について講演し、並びに団員のライフストーリーについての発表を実施した。その後、児童との交流を行った。

3. 変わりゆく社会に即した医療の考察

- ・ 静岡県浜松市において、外国人診療設備が整備された山口ハート国際クリニックの見学を行った。
- ・ 在京、在浜松ブラジル総領事館にて、在日ブラジル人への医療、精神保健に対する意見交換を実施した。
- ・ 学校法人EAS 伯人学校浜松校にて児童に対するメンタルヘルスの調査を実施した。
- ・ 静岡県浜松市において、浜松市国際交流協会(HICE)、浜松市精神保健福祉センターを訪問し在留ブラジル人の精神保健に関する聞き取りを実施した。
- ・ 僻地医療拠点病院である長崎県対馬病院にて実習を行い、同時に離島医療の実態調査を実施した。

4. COVID-19を通じた感染症への向き合い方の探求

- ・ 学校法人EAS 伯人学校浜松校、並びに常総市在住のブラジル人親子に対して「感染症の歴史からCOVID-19とその後の未来を考える」について講演を実施した。
- ・ NPO 法人MAIKEN の協力下、在留ブラジル人へ「KGRI 新型コロナウイルス危機研究」の調査を実施した。

VI. 贈呈式

令和3年度の学術研究助成金並びに大山健康財団賞・大山激励賞・竹内勤記念国際賞の贈呈式は、新型コロナウイルスの感染防止策（検温・手指消毒・マスク着用・ソーシャルディスタンス確保・演台へのアクリル板設置）を徹底し、出席者を限定（受賞者・理事・監事・評議員・選考委員）したうえで、下記の通り行った。ただし、記念祝賀会については、新型コロナウイルス感染予防のため中止とした。

- ・ 開催日時：令和4年3月24日(木) 午前11時30分～午後1時30分
- ・ 開催場所：霞山会館（霞が関コモンゲート西館37階）

◇贈呈式での挨拶等（敬称略）・・・（司会） 岡田 護 常務理事

- ・開会の挨拶及び選考経過報告 神谷 茂 理事長
- ・第 48 回学術研究助成金受贈者代表挨拶 工藤 保誠
- ・第 48 回大山健康財団賞受賞者挨拶 浦部 大策
- ・令和 3 年度大山激励賞受賞者挨拶 三好 康広（欠席のため挨拶文を神谷理事長が代読）
- ・第 4 回竹内勤記念国際賞受賞者挨拶 Marcello Otake Sato
- ・『記念講演』
 - 海外における保健医療活動の経験 — 第 48 回大山健康財団賞受賞者 浦部 大策
- ・閉会の挨拶 遠藤 弘良 専務理事

VII. 総務事項

『理事会』（令和 3 年度）

◇第 27 回理事会（書面表決）

（令和 3 年 4 月 22 日）理事総数 7 名 監事 2 名

1. 「令和 3 年度～令和 4 年度学術集会支援審査委員」の選任
※任期満了に伴う選任（退任：中里 博、新任：建野正毅）

◇第 28 回理事会

（令和 3 年 5 月 18 日）理事総数 7 名 出席者：理事 6 名 監事 2 名

1. 「令和 2 年度事業報告書（案）」の承認
2. 「令和 2 年度決算報告書（案）」の承認・「監事の監査報告」
3. 「令和 3 年度学術集会支援助成金の贈呈対象学術集会」の決定
4. 「令和 3 年度～令和 4 年度理事候補者」の推薦
5. 「令和 3 年度～令和 6 年度評議員候補者」の推薦
6. 「令和 3 年度～令和 4 年度顕彰者選考委員」の選任
7. 「令和 3 年度～令和 4 年度学術研究助成金選考委員」の選任
8. 「第 20 回評議員会（定時評議員会）の日時及び場所並びに議事に付すべき事項」の承認
9. 執行理事（神谷茂理事長、遠藤弘良専務理事、中里博常務理事）の職務遂行状況報告

◇第 29 回理事会

（令和 3 年 6 月 3 日）理事総数 6 名 出席者：理事 6 名 監事 2 名

1. 「令和 3 年度～令和 4 年度代表理事（理事長）」の選定
代表理事（理事長）：神谷 茂（重任）
2. 「令和 3 年度～令和 4 年度執行理事（専務理事、常務理事）」の選定
専務理事：遠藤弘良（重任） 常務理事：岡田 護（新任）

◇第 30 回理事会（書面表決）

（令和 3 年 12 月 24 日）理事総数 6 名 監事 2 名

1. 「学術研究助成金選考規程（案）」の承認
2. 「学術集会支援助成金審査規程（案）」の承認

◇第 31 回理事会

（令和 4 年 2 月 10 日）理事総数 6 名 出席者：理事 6 名 監事 2 名

1. 「第 48 回学術研究助成金受贈者」の決定
2. 「第 48 回大山健康財団賞、令和 3 年度大山激励賞及び第 4 回竹内勤記念国際賞」受賞者の決定
3. 「令和 4 年度事業計画書（案）」の承認

4. 「令和 4 年度正味財産増減予算書（案）」の承認
5. 「第 21 回評議員会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項」の承認
6. 執行理事（神谷茂理事長、遠藤弘良専務理事、岡田護常務理事）の職務執行状況報告
『評議員会』（令和 3 年度）

◇第 20 回評議員会（定時評議員会）

（令和 3 年 6 月 3 日） 評議員総数 9 名 出席者：評議員 6 名 理事 6 名 監事 2 名

1. 「令和 2 年度事業報告書（案）」の承認
2. 「令和 2 年度決算報告書（案）」の承認・「監事の監査報告」
3. 「令和 3 年度～令和 4 年度理事」の選任
4. 「令和 3 年度～令和 6 年度評議員」の選任
5. 執行理事（神谷茂理事長、遠藤弘良専務理事、中里博常務理事）の職務執行状況報告

◇第 21 回評議員会

（令和 4 年 3 月 24 日） 評議員総数 9 名 出席者：評議員：7 名、理事：6 名、監事：2 名

1. 「令和 4 年度事業計画書（案）」の承認
2. 「令和 4 年度正味財産増減予算書（案）」の承認
3. 執行理事（神谷茂理事長、遠藤弘良専務理事、岡田護常務理事）の職務執行状況報告

VIII. 内閣府関係

1. 『定期提出書類等』（電子申請）

（1）事業報告等の提出

- ・令和 2 年度の実業報告書及び決算報告書の提出（電子申請による関連報告を含む）
提出：令和 3 年 6 月 30 日、修正：令和 3 年 10 月 5 日、10 月 13 日、10 月 25 日
完了：令和 3 年 12 月 13 日

（2）変更の届出の提出

- ・令和 3 年度～令和 6 年度評議員（9 名）、令和 3 年度～令和 4 年度理事（6 名）の選任
- ・令和 3 年度～令和 4 年度代表理事の選定：代表理事：神谷茂（重任）
- ・提出：令和 3 年 6 月 30 日、修正：令和 3 年 7 月 20 日 完了：令和 3 年 11 月 17 日

（3）事業計画書等の提出

- ・令和 4 年度の実業計画書及び正味財産増減予算書の提出
提出：令和 4 年 3 月 31 日 完了：令和 4 年 4 月 19 日

2. 内閣府立入検査（敬称略）

- ・実施日時：令和 3 年 11 月 24 日 午前 10 時 00 分～午後 3 時 10 分（昼休み 1 時間 30 分）
- ・実施場所：本財団事務所
- ・立会者：内閣府：公益認定等委員会事務局 大臣官房公益法人行政担当室（敬称略）
審査監督調査官 増永 俊一
政策企画調査官 審査監督調査官 参事官補佐 田中 秀幸
：本財団：岡田護常務理事 田中 亨人 渡部 陸子

※内閣府より指摘された「学術研究助成金選考規程」及び「学術集会支援助成金審査規程」については新規に作成し、理事会の承認を得たうえで内閣府に提出した。

※その他の指摘事項については、令和 4 年度より順次改善していく。

以上

【附属明細書】

令和3年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和4年5月

公益財団法人 大山健康財団